

令和5年度 埋蔵文化財発掘調査の状況

令和5年度に実施した、埋蔵文化財発掘調査の成果について報告いたします。

本年度は右図のように、A区とC区でトレンチ(試し掘り)調査を、緑線の部分で地層採取調査を実施しました。

《A区の調査》

旧千曲川に向かって南東側を下る緩斜面に平行して8本のトレンチを設定・調査しました。その結果、重複する平安時代(約1,200年前)の竪穴建物跡と、時期は特定できておりませんが、掘立柱建物跡や溝跡の他、弥生時代中期後半の土器が発見されました。これにより、県道三水中野線改良工事に伴う発掘調査地点からA区に至るまでの範囲(約8万㎡)は、本格的な調査が必要となります。

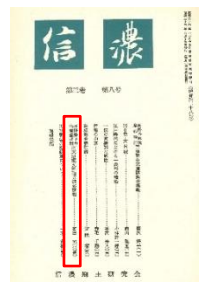
《C区の調査》

近世水田跡が分布するとされる低地部に、計19本のトレンチを設定・調査しました。確認された江戸時代の水田層は、洪水砂層を挟み込みながら幾重にも重なっていました。過去から何度も洪水に見舞われながらも、その都度、水田を復旧するという、地域の人々の長きに渡る水田耕作への熱い想いがうかがわれます。

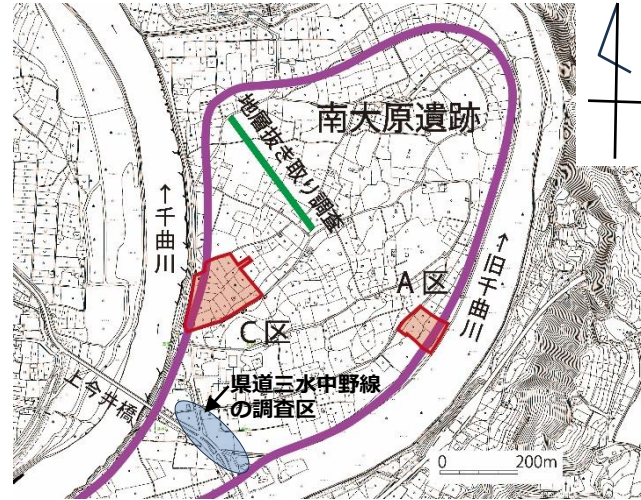
また、柱間が2間×2間で、北・西側に^{ひさし}庇をもつ奈良時代(約1,300年前)の掘立柱建物跡が見つかり、その場所については本格調査を実施し、柱穴状の土坑や溝跡、焼土跡とともに、奈良時代の土師器・須恵器が出土しました。南大原遺跡では、初めての奈良時代の遺構群です。

南大原遺跡の今昔

昭和25年に神田五六氏による発掘調査で縄文時代前期後半の竪穴住居跡の一部が発掘調査されました。出土した土器は、後に「南大原式土器」として位置付けられました。その後、県道三水中野線の改良工事に伴って、豊田村教育委員会や長野県埋蔵文化財センターが発掘調査し、弥生時代中期後半を主とする遺跡であることも明らかになりました。



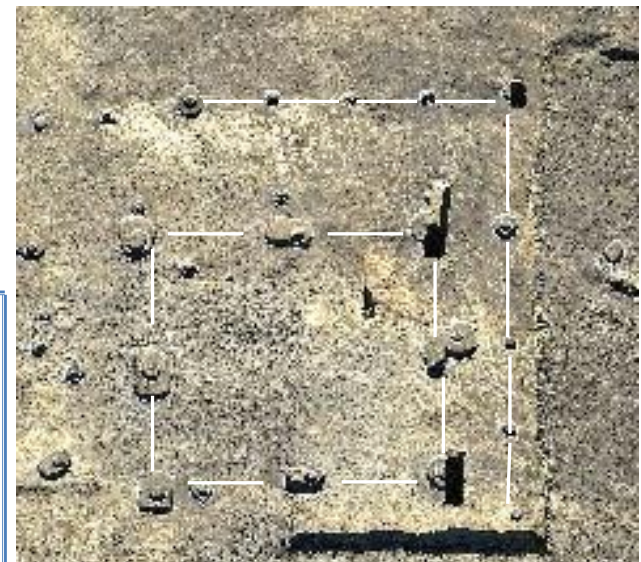
神田五六氏の調査報告掲載誌



調査区全体図



C区トレンチ土層断面写真



C区掘立柱建物跡

令和5年度 埋蔵文化財発掘調査の状況

《地層採取調査》

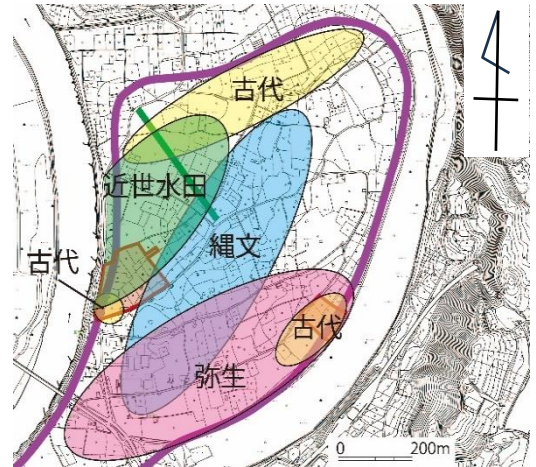
近世水田が分布するとされる低地部の「字逆川」の範囲を横断する方向に330mにわたる測線を設定し、26本の地層採取調査及び同一測線上で2箇所でのボーリング調査を実施しました。その結果、深さ6.2~6.9mで河床礫に達し、現千曲川の方に緩やかに傾斜しており、近世水田も同様に標高を棚田状に減じていたことが明らかとなりました。また、水田層の下位には、土器などの遺物を包含する土層の堆積は見られませんでした。



地層抜き取り調査 作業状況

《次年度以降の調査に向けて》

令和5年度の発掘調査で得られた成果を基に、それぞれの時代の遺構や遺物が分布する範囲を右図のように想定しました。今後は、この精度を高めるとともに空白地帯についても調査のメスを入れて把握していきたいと考えています。また、本格的な発掘調査も同時並行して進め、南大原遺跡の実像を多くの方に見ていただくようにしたいと考えています。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



各時代の領域想定図

執筆；一般財団法人 長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

上今井遊水地排水樋門工事 進捗状況

北野建設（株）

令和6年1月19日撮影

堤防下に埋まる樋門本体部分の掘削が完了し、掘削箇所での地下水の流れを遮断する鋼矢板の施工を行っています。また、後追い施工する池側構造物の掘削にも着手しています。2月中旬よりいよいよ構造物に着手しますが、引き続き安全第一に施工を進めていきます。

川裏翼壁他
施工箇所

樋門本体
施工箇所

市道大俣線

土砂仮置場

工事用道路

千曲川

令和6年1月26日撮影

上今井橋側より大型工事用車両が出入りします。ご理解とご協力をお願い致します。

お問合せ先

- 事業全般に関すること
- 用地補償に関すること
- 工事に関すること

千曲川緊急治水対策出張所
千曲川河川事務所 用地第一課
中野出張所

電話 0269-67-0450
電話 026-227-7613
電話 0269-22-2729